海外戦略の構築

JA全農は3か年計画(令和元～3年度)において5つの最重点事業施策を策定しました。全農の5年後、10年後を見据えた取り組みを5回シリーズで紹介します。

国産農畜産物の輸出拡大

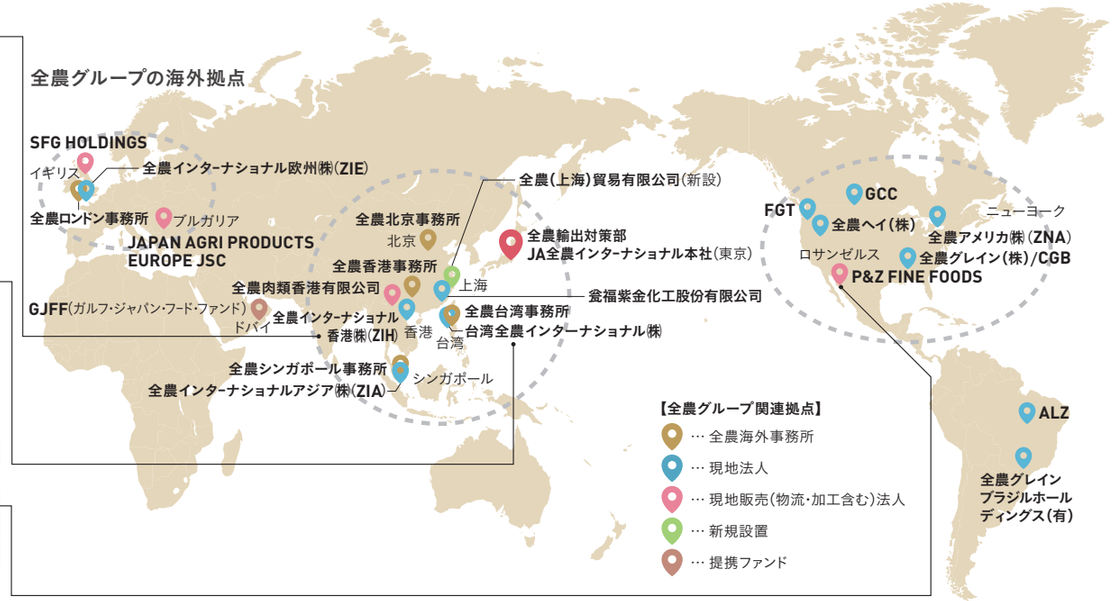
世界中に拠点を配置し、マーケットインによる販売を強化する

- 従来の、香港、シンガポール、台湾、英国、米国に加えて上海にも現地法人を開設。各国や地域での営業を強化
- 香港における自社eコマースサイトの構築や、台湾における日本産農畜産物直売所の設置に加えて、海外で展開する量販店とタッグを組んでの農畜産物の供給や香港での炊飯事業者への米・卵の供給など新たなアライアンスによる輸出拡大を行っている
- 海外における売り場確保の一つとして、複数産地によるリレー出荷の実践などオールジャパンでの取り組み拡大や、鮮度保持技術を使った輸送などにより日本の高品質な農畜産物の供給を目指している

日本産農畜産物を販売する香港のECサイト「jashop.hk」(2019年6月開設)

台湾に設置した日本産農畜産物直売所「じゃじゃ」

現地eコマース市場に向けた米国での日本産和牛加工工場



原料の安定確保・調達

サプライチェーンの強化・構築

- 米国では穀物輸出を行う全農グレイン㈱を運営。内陸では同社子会社の100基以上の集荷施設を通じ、産地から輸出港までのサプライチェーンを整え、飼料確保に努めている

全農グレイン株式会社(米国)

- 中国のりん酸製造大手である貴州燐化集団と共同で瓮福紫金化工股份有限公司へ出資し、高品質なりん酸質肥料の安定調達に取り組んでいる

瓮福紫金化工股份有限公司(中国)
おうふくしきんかこうこふんゆうげんこうし